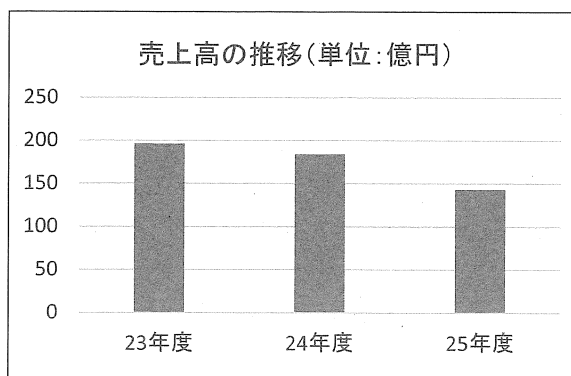




中村 「持続可能な社会を支える都市空間創造企業への進化」を目標に掲げ、35年3月に向けての方向性を示した。新設橋梁・鉄構事業で安定した経営基盤を構築した上で、保全事業や大空間（生研トラス）事業を中心とした新事業に経営資源を投入し、業容

などの活用で得た  
新設鋼橋の施工管  
理データを維持管  
理や災害時の復旧  
工事に活用してい  
く仕組みづくりを  
模索したい。

このほか、橋梁  
向けに自社開発し  
たボルトキャップ  
「SHELLPONS」  
(シェルポンス)による高  
力ボルト腐食防止や橋梁用

な提案トラス

# 「VISION 2035」始動

より、今後は航空機格納庫など防衛関連施設の建設が進む見通し。当社は過去に実績を有しており、その知見を生かして「生研トラス」の施工実績をさらに増やしていきたいと考えている。

——工場のCN対策について。

中村 和歌山工場では以前からソーラーカーポートを設置し、発電した電力を事務所棟で自家消費するなどの取り組みを進めてきた。このほど、同工場では使用する電力を再生可能エネ

昨年は、大学生  
 ・高専生が鋼橋模  
 型を製作し、設計  
 や架設を競い合う  
 大会「J S B C 2  
 025」に企業部  
 門が新設され、若  
 手社員を中心にチ  
 ームを結成して出  
 場。その結果、



那霸空港高架道路上部工工事

中村 新設鋼橋の発注量  
および鉄骨の需要量がともに落ち込んだことに加え、鋼材価格をはじめとする製造原価が増大した結果、2026年3月期は売上高143億円、経常損失3億00万円という厳しい結果になった。

41億円で増加となった。今年度は近畿圏の再開発案件など鉄構事業の受注が好調に推移しており、昨年実績を上回る見通しだ。全体としても売上高の増加、最終利益の黒字転換を見込んでいる。

「VISION20

設鋼橋の発注量減少を受け  
更新や維持修繕工  
事における技術的  
競争力を高めてい  
く。また、橋梁の  
施工管理システム  
「DXツインビュ  
ー」や、桁架設誘  
導システム「ブリ  
ャー」を開発し、業  
容拡大へ

# 35」 動 始

政府の防衛力整備計画に  
より、今後は航空  
機格納庫など防衛  
関連施設の建設が  
進む見通し。当社  
は過去に実績を有  
しており、その知  
見を生かして「生  
研トラス」の施工

だけでなく男性社員にも育児休暇の取得を推奨するなどを働きやすい環境づくりを進めてきた。

今年は大大学院卒、大学卒高専卒、高卒合わせて9人が入社している。社員の育成計画や人事評価制度の改定なども行っているが、若

大きい。技術一辺倒ではなく、社内の部署が連携して新たな取り組みを進めていけるような土台づくりとして、今後もうこうした外部団体主催のイベントへの参加などを検討していきたいと考えている。（聞き手・八木香織、文中敬称略）

——2025年度業績と  
今年度の見通しは。

受注高は橋梁事業が11億円で微増、鉄構事業が

拡大を図る。

保全事業については、新

用いた大空間建築物の提案を進めている。

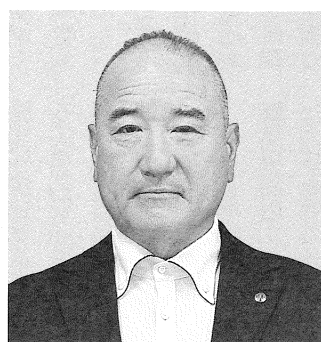
てはベースアップのほか、  
各職場で活躍する女性社員

つながりができたことなど  
大会出場で得られた成果は

大手ファブ  
トップインタビュー④

# 2026年 わが社の 経営戦略

高田機工



中村 達郎社長

小型減衰付加装置「ベロ  
ズ型ダンパー」による橋梁  
の耐震性能向上などを進め  
ていく。

大空間（トラス）事業に

については、一昨年から東京を拠点とする空間創造部が

PRを強化していきたい。  
——課題への対策は。

外部の行事に出場して技術力を認められたこと、部

橋梁・鉄骨製造時のCN需  
要へ応じるべく、提案時に

内では志を募り、2年連続で出場した。

「Z型ダンパー」による橋梁の耐震性能向上などを進め

働に伴う電力由来のCO<sub>2</sub>排出量は実質ゼロとなった。

総合部門」で優勝すること  
ができた。また、今年は社

小型減衰付加装置「ベロ」

ルギーへ切り替え、工場稼

「企業構造部門」と「企業